

## 10. 二抗体法による「CEA 栄研」kitの基礎的検討

岩崎 宏司 計屋 慧實 中島 彰久  
本保善一郎 (長大・放)

現在、CEA 測定用 kit は、ダイナボット社よりサンドウィッチ法による「CEA リアキット」および日本ロシュ社より z-gell 法による「CEA ロシュキット」etc が、市販されているが、両者とも測定に際し抽出操作を必要とするために、自動分注装置の利用による assay が困難であった。

今回、われわれは栄研 ICL 社の二抗体法による CEA RIA kit「CEA 栄研」を使用する機会を得、若干の基礎的検討を行なったもので、その成績について報告した。

本キットは、二抗体法のために、抽出操作を必要とせず、自動分注装置による assay が可能になった。再現性、回収率および希釈試験においてすぐれていた。一方、他社キット(ダイナボット社 CEA キット)と比較した結果、 $n=60$  で  $r=0.96$   $y=0.89x+2.12$  と両者は良く相関した。

11. RI 注入患者の排尿中放射能濃度——特に  $^{99m}\text{Tc}$ ,  $^{67}\text{Ga}$ ,  $^{201}\text{Tl}$  について——

平谷 隆彦 計屋 慧實 岩崎 宏司  
田川 文夫 三宅 秀敏 相川 久幸  
中島 彰久 本保善一郎 (長大・放)

昨今体外計測検査には  $^{123}\text{I}$  や  $^{99m}\text{Tc}$  のような短半減期核種が利用され、 $^{99m}\text{Tc}$  のように比較的多量に投与される場合もある。また  $^{67}\text{Ga}$  や  $^{201}\text{Tl}$  は半減期は約3日と  $^{99m}\text{Tc}$  などと比べると比較的長い<sup>2)</sup>、日常よく使用されている。これらの核種の投与患者が投与以後、どれほどの期間どれくらいの濃度で尿中に排泄されるかを排尿毎に測定して検討した。

$^{99m}\text{Tc}$ -MDP は約6時間、 $^{67}\text{Ga}$  と  $^{201}\text{Tl}$  は30時間までは多量に排泄されるが、以後は暫時減少する。これらの結果を考え合せると排尿場所、尿取扱者、尿検査者等の汚染等が問題となろう。従って尿中 RI の除去、および汚染の点から少くとも最初の24時間は管理すべきかと考える。

12.  $^{99m}\text{Tc}$  レニウムコロイドによるリンパ節シンチグラム

和田 誠 鴛海 良彦 鴨井 逸馬  
一矢 有一 本田 浩 沼口 雄治  
松浦 啓一 (九大・放)

$^{99m}\text{Tc}$ -Re コロイドを用いて悪性リンパ腫など、20症例にリンパスキャンを施行した。Kinmonth 法による contrast lymphography を併用した12症例について、両者の所見を比較検討するとともに、正常一例、異常一例を供覧した。

得られた結果はつぎの通りである。

1. 撮像は注入後1時間で可能であった。
2. リンパ節の描出率は、リンパ管造影正常者でも、傍大動脈リンパ節45% 腸骨リンパ節60%と低かった。
3. リンパスキャンで異常のあった22部位中リンパ管造影でも異常なものは3部位であった。また、リンパスキャンが正常であった24部位は、いずれもリンパ管造影でも正常であった。

なお Re コロイド注入時、注入部に疼痛があった以外、副作用は認めなかった。

## 13. RI image, CT および Echo image の比較 (第1報)

越智 澄夫 江上 廣一 野口伊津子  
深江 俊三 谷村 陽子 水上 忠久  
(聖マリア・放)  
中山 信一 (久大・放)  
矢野 潔 (県立柳川・放)

当院において、昭和55年4月に東芝製ガンマカメラが設置されたのを機会に、従来より既に設置されている CT (AS & E), Echo (東芝電子スキャン 53H, UI octoson) の各 image を比較する機会を得た。上記の二者または三者の検査が行われた症例数が約80例であった。これらの各 image を比較し、この中の興味ある症例を供覧する。